

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	山宮 紅葉	所 属	社会人連盟
大 会 名	令和 8 年度 社会人オープンリーグ リーグ戦		
期 間	2 0 2 3 年 8 月 15 日 ～ 16 日（参加日：8 月 15 日、16 日）		
会 場	武蔵野総合体育館、光が丘体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8 月 15 日	SEVEN STARS vs 三井住友銀行本社	武蔵野総合体育館	
8 月 15 日	葵企業 vs メディセオ	武蔵野総合体育館	
8 月 16 日	机上講習会	光が丘体育館	
開校式、研修会講義内容			
● 8 月 15 日 9：00～ 開校式 ○JSB 関東ブロック委員長 湯浅康文様よりご挨拶 東京都社会人連盟理事長 島田永秀様よりご挨拶 JSB 関東ブロック審判委員長 松本祐大様よりご挨拶 ・試合だけでなく、TO 含め様々なことを感じて欲しい。・自信を持ってコートに立って欲しい。 ○インストラクター、各県理事長様、各県審判長様紹介、受講生自己紹介 ● 8 月 1 5 日 17：30～ 机上講習会『コミュニケーションについて』講師：加納康平氏 ○良い審判とは。 ・良い審判とは、単に判定が正確な審判ではなく、選手やコーチ、クルーから信頼される審判であると学んだ。 ・「何かあったら〇〇さんに言おう」「この人ならゲームを荒らさない」と思ってもらえる存在になることが重要。 ・判定力・メカニクスだけではなく、ゲームをコントロールするための人間力やコミュニケーション能力が必要。 ○コミュニケーションについて ・ゲーム中のコミュニケーションは、相手から話しかけられるのを待つのではなく、意図的に自分から作り出すことが重要。 ・まずは相手の話を聞く「傾聴」の姿勢を持つ。 ・「何を伝えるか」だけではなく、その会話をどこに着地させたいのかを考えてコミュニケーションを取る。 ・嘘をつかない、間違いは素直に認めて謝る、言うべきことは言う、やるべきことはやるなど、日常生活での姿勢がコート上のコミュニケーションにもつながる。 ・何も起きていない時にも選手やコーチと会話をし、反応や表情を確認する。 ・目配り・気配り・心配りを大切にし、常に「<u>気づき</u>」を意識する。 ・一方的に声を掛けて終わるのではなく、会話を 2～3 往復することを意識する。 ・コミュニケーションは、ゲームを円滑に進めるための重要な審判技術の一つ。 ○判定後の対応について ・誰でも判定を間違えることはあるため、重要なのは間違えた後にどのように対応するか。 ・判定ミスの後こそ、その後のコミュニケーションを大切にし、選手・コーチとの信頼関係を崩さないようにする。 ・ゲーム後に失敗や気になったことをメモに残し、次のゲームで具体的に試してみる。 ・「失敗しない」ことだけを目標にするのではなく、失敗から学び、次のゲームで行動を変えることを大切にする。 ・「ゲームに何も無いのではなく、自分が何もしていないだけ」という考え方をもち、常に自分からゲームに働きかける意識を持つ。 ○スカウティング・ゲーム前の準備 ・スカウティングの中で気になる選手やチームの特徴があれば、ゲームが始まる前にクルーへ共有する。 ・プレゲームカンファレンスでは、ルールやメカニクスの確認だけでなく、ゲームの特徴やチームの傾向を踏まえたゲームプランをクルーで			

共有する。

・ゲームが始まってから対応するのではなく、事前に情報を共有することで、クルーとして共通認識を持ってゲームに入ることが重要。

○クルーコミュニケーション

・「判定については自分に任せてください。自分もやるべきことをやるので、皆さんもやるべきことをやってください」というように、お互いの役割を信頼し、それぞれが責任を持つことが重要。

・自分の判定だけに集中するのではなく、クルーそれぞれの役割を理解し、必要な場面では助け合う。

・クルー全員が同じ方向を向き、ゲームをコントロールしていくことを意識する。

○テクニカルファウルについて

・テクニカルファウルについては、ライセンスに関係なく、必要な場面ではしっかりとコールすることが重要。

・マニュアルに記載されている内容を正しく理解し、必要な場面でためらわずにコールする。

・「吹くことへの怖さ」や「ゲームを荒らしたくない」という気持ちから必要なコールを避けるのではなく、選手を守り、ゲームの健全性を保つために必要な判定をする。

・ルールを正しく運用することが、選手・チームを守ることに繋がると学んだ。

○メカニクスについて

・リードの動きについて、必要な場面では消極的にならず、自分が行くべきだと判断したら積極的にポジションを取りに行く。

・メカニクスをただ形として覚えるのではなく、「なぜそのポジションに行くのか」「その位置から何を見るのか」を考える。

・リードとして必要な場所に積極的に動き、よりアクティブにゲームを見ることを意識する。

・メカニクス・ルール・ゲームプランをそれぞれ別々に考えるのではなく、すべてをつなげてゲームに生かしていく。

●ゲームを通しての学び・助言

・ファウルに関しては、コールできるものはコールしていく。線引きをしっかりとる。 → コンパクトに、ファウルと思ったものはコールしていく。

・クルーとのコミュニケーションについて。「目を合わせる」ことがとても大事。 → スイッチサイド、グレードアップ等を含め、アイコンタクトを意識する。

・何のために喋るのかを考える。 → 繰り返し伝えてくる理由を考える。

・マルかバツかをしっかり確認する。 → 「決めること」が大事。

・それぞれのチームの背景を理解する。 → SB2 同士など、因縁のあるゲームという点も感じながらゲームを見る。

・テクニカルファウルについて。 → クルーがテクを吹いたことに気づいていないケースは、コミュニケーションミスにつながる。

担当試合①

期 日	8月15日（土）
対戦カード	SEVEN STARS（淡） vs 三井住友銀行本社（濃）
ク ル ー	CC：山宮紅葉（埼玉県） U1：永島 誠人氏（栃木県） U2：梅田 晃玖氏（茨城県）
ミーティング内容	審判主任：千葉美幸 氏（東京都）、松本祐大氏（栃木県）

▶ゲーム前の PGC

・最終目標：ベースシクの徹底

→ まずはベースシクを徹底して、当たり前のことを当たり前にやる。

→ 3人それぞれが自分の仕事をしっかりとることを意識する。

・ポジションアジャストの意識

→ 決められたメカニクスだけにとらわれず、ゲームの状況やプレーの傾向に合わせてポジションアジャストをしていく。特にドライブの方向や頻度を見ながら、より良いアングルを取ることを意識する。

・スカウティング情報の共有

→ ゲーム前に気になる選手・チームの特徴を共有し、3人で共通認識を持つ。ゲーム中に気づいたことも、必要に応じてクルー間で共有する。

・クルーの直近の試合について

→直近の試合で感じた課題や、今回意識したいことを共有する。前のゲームからの課題を今回のゲームで一つでも改善できるようにする。

・Same call の重要性

→3人でゲームの基準を合わせ、同じプレーに対して同じ判断ができるようにする。

・ゲームを吹く責任感

→3人でゲームを任されているという責任感を持ってコートに入る。

→自分のプライマリーだけを見るのではなく、クルーとしてゲーム全体を見る。

→必要な判定・コミュニケーションをためらわず、選手が安心してプレーできるゲームを作る。

▶ゲーム後のミーティング 審判主任：千葉美幸氏、松本祐大氏

・考えながらよくできていた。その中で、「何をコールするのか」をしっかりと考える。

・クルーチーフとして、どの場面で、どのように介入するのかを考えることが今後の課題。

・笛の音が小さく、プレーヤーが気にしていないものに対するコールが多かった。

・「プレーヤーの様子はどうか」という問いに対し、プレーヤーの意識の矢印が審判に向くことが多かった。

・テンポセットとは何か。ゲームの中での基準作りについて、改めて考える必要がある。

・「見る」には英語で3つの表現がある。Look、See、Watch。

・無意識に行っていることを、意識して取り組めるようにしていく。

・クラブに関しては、判定してあげたい場面について、しっかりとテクニカルファウルとして対応することも必要。

担当試合②

期 日	8月16日（日）
対戦カード	葵企業（淡） vs メディセオ（濃）
ク ル ー	CC：山宮紅葉（埼玉県） U1：籠谷 琢磨氏（群馬県） U2：浦井 龍介氏（茨城県）
ミーティング内容	審判主任：島袋竹志氏（東京都）、岩渕健介氏（神奈川県）

▶ゲーム前の PGC

・最終目標：ベーシックの徹底

→まずはベーシックを徹底して、当たり前のことを当たり前にやる。

→3人それぞれが自分の仕事をしっかりとすることを意識する。

・ポジションアジャストの意識

→決められたメカニクスだけにとらわれず、ゲームの状況やプレーの傾向に合わせてポジションアジャストをしていく。特にドライブの方向や頻度を見ながら、より良いアングルを取ることを意識する。

・スカウティング情報の共有

→ゲーム前に気になる選手・チームの特徴を共有し、3人で共通認識を持つ。ゲーム中に気づいたことも、必要に応じてクルー間で共有する。

・クルーの直近の試合について

→直近の試合で感じた課題や、今回意識したいことを共有する。前のゲームからの課題を今回のゲームで一つでも改善できるようにする。

・Same call の重要性

→3人でゲームの基準を合わせ、同じプレーに対して同じ判断ができるようにする。

・ゲームを吹く責任感

→3人でゲームを任されているという責任感を持ってコートに入る。

→自分のプライマリーだけを見るのではなく、クルーとしてゲーム全体を見る。

→必要な判定・コミュニケーションをためらわず、選手が安心してプレーできるゲームを作る。

→昨日の研修を生かす。「コミュニケーションを5往復以上！」「何事にもチャレンジ！」

▶ゲーム後のミーティング 審判主任：島袋竹志氏、岩渕健介氏

・各ケースの見解や、その場面での対応について確認。

・CCとしてゲームをまとめること。→自分1人でやろうとせず、クルーと協力してゲームをまとめることも必要。

・ゲームをまとめるだけでなく、ゲームのおもしろみを引き出すことも今後コミュニケーションを介して考えていく。

・テクニカルという処置をした後の、プレーヤーの反応や、その後の処置についても考える必要があった。

全体の感想

はじめに、今大会の開催にご尽力いただきましたJSB 関東ブロックの皆様、派遣していただきました埼玉県協会の皆様に、心より感謝申し上げます。

今回の講習会を通して、改めて自分自身の課題と、今後取り組むべきことを整理することができました。

特に印象に残ったのは、良い審判とは、判定やメカニクスが優れているだけではなく、「何かあったらこの人に言おう」「この人ならゲームを荒らさない」と思ってもらえるような、信頼される審判であるということです。そのためには、ベーシックを徹底することはもちろん、選手やコーチ、クルーの様子をよく見て、自分からコミュニケーションを作っていくことが大切だと感じました。

「何のために喋るのか」「なぜ相手がこのように言ってくるのか」と考え、会話を2〜3往復することや、目を合わせることなど、普段何気なく行っていることを意識することで、ゲーム中のコミュニケーションに深みが出ることを学びました。また、「無意識の意識化」という言葉も印象に残り、日常生活での姿勢も含め、一つ一つの行動を意識していきたいと感じました。

実技では、プライマリーを一生懸命見ようとするあまり視野が狭くなることや、ポジションアジャスト、ファウルの線引き、笛やデリバリー、細かな所作など、自分自身の課題を具体的に確認することができました。「マルかバツかを決めること」や「ゲームに何も無いのではなく、自分が何もしていないだけ」という言葉を忘れず、常にゲームの中で起きていることに気づき、自分から働きかけられる審判を目指したいと思います。

また、CCとしてゲームをまとめる際には、自分一人で何とかしようとせず、クルーを信頼し、3人で一つのゲームを作っていくことの重要性も学びました。今回学んだことをその場限りで終わらせず、実際のゲームで「試す→振り返る→修正する」ことを繰り返し、審判としての成長につなげていきたいと思います。

今回の派遣にあたり、大変お世話になったJSB 関東ブロックの皆様、また今大会へ派遣してくださいました埼玉県協会の皆様、そして日頃の活動でご指導してくださる皆様に、心より感謝申し上げます。この経験を連盟や県内での活動に還元できるよう、研鑽を重ねていきたいと思います。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすい図や写真を入れることも可能です。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	須崎優斗	所 属	社会人連盟
大 会 名	令和 8 年度 JSB 関東ブロック講習会		
期 間	2 0 2 6 年 8 月 1 5 日 ～ 1 6 日（参加日：8 月 1 5・1 6 日）		
会 場			
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8 月 1 5 日	審判会議、研修会	武蔵野総合体育館	
8 月 1 5 日	Simon tokyo VSTIS インテックグループ	武蔵野総合体育館	
〇〇月 〇〇日	クレーンズ VS 特別区	光ヶ丘体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
【コミュニケーションについて】 ・コミュニケーションでは、相手の話をしっかりと聞く「傾聴の姿勢」を大切にする。 ・嘘をつかず、誠実に相手と向き合う。 ・自分の間違いは素直に認め、必要に応じて謝る。 ・言うべきことはしっかりと言い、行動すべき時には行動する。 ・コミュニケーションを取る際には、「どこに着地させたいのか」を考えておく。 ・特に話題がない時でも、相手の変化や様子に気づくことを意識する。 ・一度の会話で終わらず、そこから話題を広げ、コミュニケーションを増やしていく。 ・コミュニケーション能力を上達させるためには、自分自身の個性を活かし、さまざまな人とのコミュニケーションに積極的にチャレンジする。			
担当試合①			
期 日	8 月 1 5 日 1 回戦		
対戦カード	Simon Tokyo VS TIS インテックグループ		
ク ル ー	CC：阿倍 一博氏（神奈川） U1：渡邊 希有氏（茨城） U2：須崎優斗（埼玉）		
ミーティング内容		審判主任：島袋 竹志氏（東京）・小山 洋一氏（埼玉）	
▶ゲーム前の PGC ベーシックなメカニクスの確認 チーム情報 エッジのプライマリの確認 ▶ゲーム後のミーティング C においてのベーシックなポジション T の際の追従するときの位置どり Game 序盤で起きた自分の目の前での明らかなコンタクト ポジションアジャストの仕方を研究する必要がある			

担当試合②	
期 日	8月16日
対戦カード	クレーンズ VS 特別区
ク ル ー	CC：椎名 佑弥氏（栃木） U1：白澤 建斗氏（山梨） U2：須崎 優斗
ミーティング内容	審判主任：千葉美幸氏（東京） 小山洋一氏（埼玉）
▶ゲーム前の PGC ベーシックなメカニクスの確認 チーム情報 エッジのプライマリの確認 ▶ゲーム後のミーティング game をスムーズに進めるためのコミュニケーションやアクションの取り方、改善が必要である ダブルで鳴らすケース、結果的にプライマリがレポートしないケースがあった。 プライマリを重視する必要がある。	
全体の感想	
●最後に、本大会の開催にご尽力いただきました JSB 関東ブロックの皆様、また今回の派遣に際しご尽力いただきました埼玉県協会の皆様に、心より感謝申し上げます。 今回の派遣では、自分自身の課題としていたメカニクスとコミュニケーションについて、実際のゲームや研修を通して学びを深めることができ、とても充実した 2 日間となりました。特に、トップカテゴリーで活動されている審判員の方々の立ち振る舞いやゲームへの向き合い方に触れ、自分自身の現在の課題や今後取り組むべきことを改めて考える機会となりました。 また、他県の審判員の方々との交流や講師の方々からのレクチャーを通して、普段の活動では得られない新たな視点や考え方を学ぶことができました。今回得た経験や学びを今後の県内・連盟での活動に生かし、審判員としてさらに成長できるよう、日々研鑽を重ねてまいります。 改めまして、このような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。	

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	竹澤 遼太郎	所 属	社会人連盟／〇〇カテゴリー
大 会 名	令和 8 年度 東京都社会人バスケットボール連盟 リーグ戦		
期 間	2 0 2 6 年 8 月 15 日 ～ 16 日		
会 場	武蔵野総合体育館、光が丘体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
8 月 15 日	実技講習、机上講習	武蔵野体育館	
8 月 16 日	実技講習	光が丘体育館	
審判会議、研修会 講義内容			
●加納 康平氏（神奈川県） 講義 1:「3PO のベーシックなメカニクスと IOT」 講義 2:「普段レフェリーしている中での悩みに対する質疑」 Q:「良い審判とはどんな審判ですか？」→コミュニケーションをとることが出来る。 加納氏はコミュニケーションを意図的に作りだすように意識している。そのコミュニケーションをするときに加納さんが意識していることは ・嘘をつかない ・間違いは認める、謝る ・言うことは言う、やる時はやる →自分がなぜそのようなコールをしたのか考えを言う、テクニカルを出すときは出す。 →線引きをする。抑えるだけでなく、テクニカルを出す線引きを考えておく ・話の着地点を考えておく ・何もない時こそ話をする、プレイヤーのリアクションを見逃さない →Awareness、笛を吹くこと以外で何が出来るか。 会話を 1 往復で終わらせないことが大事。選手や監督となんでも言い合える関係を作ることが出来れば楽になる。 相手が、何が言いたいかを考えて話すことが重要。自分が相手の手の上で転がされているように見せて、自分が相手の言いたいことを言わせて手の上で転がすようにしゃべるようにするのが良い。 PreGameConference では以下について話している。 ・ルールの確認 →IRS の確認、レアケースの確認等 ・メカニクスの確認 →ローテーションの確認。リードが主導で、何を見たいか何をしたいかでローテーションをする。 ・ゲームフロー、ゲームプラン →「ゲームプラン」については、どのようなゲームにしたいかを話している。加納氏はファールコールが多くなって何回も止まるような試合は面白くないため、そのようなゲームではなくコンタクトが多い、見ていて面白い試合にしたいと考えている。 →「ゲームフロー」については、机上講習で加納氏から「マージナルはファールですか？ ノーフールですか？」という問いが出された。加納氏は「ファールだ」と述べていた。ゲームの序盤ではテンポセットで白、黒ははっきりさせたいからマージナルは黒（ファール）にする。つまり、マージナルはファール。終盤ではマージナルは誰も気にしなくなるから白（ノーフール）にする。			

担当試合①	
期 日	8 月 15 日（土）
対戦カード	BLAZE vs 龍伸 BONDS
ク ル ー	CC：齋藤 一輝氏（東京都） U1：向中野 心氏（神奈川県） U2：竹澤 遼太郎（埼玉県）
ミーティング内容	審判主任：久保 あしみ氏（千葉県）、小山 洋一氏（埼玉県）
▶ゲーム前の PGC メカニクスの確認、プライマリーの確認などの基本的なことを確認した。また、BLAZE が、人数が少ないため、個人ファールを適宜確認しながらゲームを進めていくように共通理解を図った。 ▶ゲーム後のミーティング クルー全体で基本的なことを徹底できていたという評価を頂いた。また、私はマニュアルを徹底できていたためこれからも続けてほしいという評価を頂いた。 この試合では特に大きなインパクトのあるコンタクトや難しい判定、波がある試合というわけでは無かったため、審判の介入すべき場面が少なかった。そのような試合で、どこで審判が介入するか、「自分」を出すかと言うのが難しかったが、審判がもっと介入すべきポイントがあったのではないかと言う反省点があった。 また、波があまり無い試合だからこそいきなり起きたビッグインパクトをコールできないと、そこからゲームが崩れてしまうため常に備えておく必要がある。 ▶ゲーム全体の感想 基本的なこと、マニュアルを徹底してコールすることが出来たことは非常に良かったと考える。全体的に静かなゲームであったため、声を使ってゲームを引っ張ったり、再開を速くするようにしたりしてだらだらとした雰囲気にならないように意識して行った。 ゲーム後のミーティングでも言われた通り、審判が介入すべきタイミングが少ないゲームだったからこそ、どこで「自分」を出すかと言うのがとても難しかった。難しい判定が少ない試合だからこそ様々なことを考えなくてはならないと感じた。	
担当試合②	
期 日	8 月 16 日（日）
対戦カード	如月クラブ vs Simon Tokyo
ク ル ー	CC：小椋 哉斗氏（山梨県） U1：竹澤 遼太郎（埼玉県） U2：梅田 晃玖氏（茨城県）
ミーティング内容	審判主任：島袋 竹志氏（東京都）、松本 祐大氏（栃木県）
▶ゲーム前の PGC ローテーションの際にリードが何をしたいかで動く。レベルの高い試合であるためそれぞれのプライマリーで基本的なことを徹底する。それぞれの目標をしっかりと遂行できるようにする。前日の机上講習で加納氏に教えていただいたコミュニケーションの方法を実践していく。 ▶ゲーム後のミーティング クルー全体的に、ゲームを通して良い判定が多かったという評価を頂けた。また、トランジションの際に走って、先に待ち構えて判定しようとする意識があり良かったという評価を頂いた。私は積極的に判定しようとする意識が見られ、続けてほしいと言われた。しかし、その反面ボールウォッチャーになっているため改めてプライマリーを認識してほしいとも言われた。 また、リードの際に内側にいることが多かったため、エッジの 3 ポイントシュートがあった際にリードの自分が見るかトレールに任せるかあやふやにしてしまった場面があった。そのため展開を予測して、外側で開いて見た方がプレーも見やすいしエッジの 3 ポイントシュートも見やすいというアドバイスも頂いた。 ▶試合全体の感想 レベルが高い試合だったが自分を信じて、持っている実力を発揮することが出来たことはとても良かったと感じた。	

フラストレーションをためているプレーヤーがいたため適宜話を聞きながらゲームを進めることが出来た。そのためそのプレーヤーがフラストレーションを爆発させることなくゲームを終えることが出来た。この試合のようにレベルが高い試合では、ゲーム中の気付きをコールに活かしたり、ゲームフローを考えながらコールを選択したりすることが大事だと思うがそのようなことが出来なかったため、もっと試合を経験したり見学したりして高めていきたい。

ゲーム後のミーティングで「プライマリーを再確認してほしい」と言うことを言ってもらい、私が基本的なことが出来ていなかったという悔しさを感じた。基本的なことを徹底することの重要性を改めて感じる事が出来た。

全体の感想

今回、このような学びの多い素晴らしい講習会に参加させていただけたことを、大変うれしく思います。この JSB 関東ブロック審判講習会に派遣していただきました社会人連盟審判長の小山さんをはじめとする埼玉県協会の皆様、関係者の皆様、そして講習会でご指導いただいた講師・インストラクターの皆様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回、初めてこの講習会に参加させていただき、各都県から集まった同じ志を持つ受講生の方々から、強い刺激を受けることができました。私はこれまで、大きな大会やレベルの高い試合になると、自分に自信を持てなくなることが多くありました。しかし、今回の試合では 2 試合とも自信を持って臨み、自分の持っている力を発揮することができたと感じています。その結果、新たな課題を発見することもできました。

机上講習では、加納氏から主にコミュニケーションについてのお話をいただきました。今回、加納氏からいただいたお話を実践するだけでなく、今後の経験や見学を通して試行錯誤を重ね、自分なりの考えを確立し、「自分」を作っていくことが重要だと感じました。

今回の講習会で得た学びや経験を今後の審判活動に活かし、埼玉県に貢献できるよう、より一層精進してまいります。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすい図や写真を入れることも可能です。